

矢崎 彦太郎（指揮） Hikotaro Yazaki

上智大学数学科に学び、さらに東京藝術大学指揮科で指揮法を学ぶ。日本フィルハーモニー交響楽団指揮研究員として小澤征爾の助手を務めた後、ヨーロッパに渡り、H. スワロフスキー、Z. コシュラー、F. フェラーラ、S. チェリビダッケ、P. デルヴォー各氏に師事。プザンソン国際指揮者コンクールなどに入賞を果たし、1975年ボーンマス交響楽団を皮切りに本格的に指揮活動を開始、BBC交響楽団などに招かれる。79年よりパリに拠点を移す一方、同年には東京交響楽団定期演奏会を指揮し日本でも本格的なデビューを果たす。

これまでに、東京交響楽団指揮者、旧西ドイツホフ交響楽団音楽監督・首席指揮者、フランス国立トゥールーズ室内管弦楽団、ノルウェー放送管弦楽団、及び東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団首席客演指揮者、バンコク交響楽団音楽監督・首席指揮者、ジャカルタのヌサンタラ交響楽団音楽監督などを歴任。現在、バンコク・シルパコン・サマー・ミュージック・スクール／ミュージック・アドバイザー、バンコク・プロムジカ・オーケストラ客演指揮者。2000年フランス政府より芸術文化勲章シュヴァリエを、08年には同オフィシエ勲章を受勲。02年エクソンモービル音楽賞奨励賞を受賞。12年度文化庁「文化交流使」。21年「芸術を通じた日本と諸外国との文化交流促進に尽力し、友好親善に寄与した」事に対し外務大臣表彰を受ける。パリと東京に活動拠点を置く。

金子 三勇士（ピアノ） Miyuji Kaneko

2008年バルトーク国際ピアノコンクール優勝。

第12回ホテルオークラ音楽賞、第22回出光音楽賞など、受賞多数。

6歳より単身ハンガリーに留学。11歳よりハンガリー国立リスト音楽院大学に入学、16歳で帰国した後、東京音楽大学付属高等学校に編入、清水和音、迫昭嘉、三浦捷子の各氏に師事。

これまでにゾルタン・コチシュ、シルヴァン・カンブルラン、ジョナサン・ノット、小林研一郎、広上淳一、山田和樹、鈴木優人、など、国内外の名だたる指揮者と共演。オーケストラではハンガリー国立フィルハーモニー管弦楽団、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団、ブラハ交響楽団、NHK交響楽団等と共演。これまで20カ国近く世界各地で演奏活動を行なう。

2024年4月に発足した「日本＝ハンガリー未来プロジェクト」のエグゼクティブプロデューサーに就任、国家間の文化交流に精力的に取り組んでいる。キシマロシュ名誉市民。スタインウェイ・アーティスト。

オフィシャルHP <https://miyuji.jp/>

フィルハーモニックアンサンブル管弦楽団（オーケストラ） Philharmonic Ensemble Orchestra

1976年、立教大学交響楽団OBにより、合唱団の依頼に応えるかたちで「メサイア」（ヘンデル）祝祭オーケストラとして結成。1979年に初の主催演奏会を開くにあたり、広く門戸をひろげ、一般の社会人オーケストラとして東京を中心に自主運営活動が続けている。

「ホールも楽器の一部」との基本理念から演奏会場も音響の良いホールを求め、本拠地東京のみならず、国内外の名ホールを訪ねる演奏旅行なども企画し、他地域との交流にも心がけている。また、第一線の演奏家を指導者に迎えるのみならず、トップアーティストをソリストやゲストとして迎えるなど、常に音楽的刺激を享受しオーケストラのレベル向上をはかっている。1992年USAコンサートツアーでは、フィラデルフィア他ニューヨークのカーネギーホールで公演。故柴田南雄氏の「日本の古典」を題材にした作品を海外に紹介し、日本を代表するジャズピアニスト山下洋輔氏共演のガーシュイン「ラプソディ・イン・ブルー」と共に喝采をあげる。1998年、ウィーン楽友協会大ホールにて日本をモチーフにした曲などを紹介する。2000年、北京の世紀劇院大ホールにて、共演のマリンバ奏者安倍圭子作品の自作自演などを指揮の大友直人氏とともに紹介。2002年5月にはベルリンのフィルハーモニーホールにて、三枝成彰作曲のカンタータ「天涯」（ボーイソプラノ独唱：ヨナタン・リヒター）を大友直人指揮で海外初演し、モルゲンポスト紙などでも好評を博す。2004年3月、レオンカヴァッロ作曲のオペラ「ラ・ボエーム」をトヨタコミュニティコンサートの一環として日本初演、音楽関係誌で絶賛される。2007年7月に小林研一郎指揮で第3回ヨーロッパ演奏旅行を実施。ハンガリーのブダペストにてベートーヴェン「第九」、オーストリアのウィーンにてマーラー交響曲第2番「復活」を演奏し好評を博す。2009年7月、オランダのアムステルダム コンセルトヘボウ サマーコンサートに招聘され、小林研一郎指揮（独唱：Martina Prins, Helena Rasker）でマーラー交響曲第2番「復活」を演奏。満席の聴衆からスタンディング・オベーションを受ける。2010年11月、三枝成彰団長の六本木男声合唱団倶楽部に同行し、イタリアのミラノ大聖堂にて、三枝成彰「レクイエム」を演奏。2012年、7月チェコのドヴォルザークホールにて、小林研一郎指揮のもと、チャイコフスキー「交響曲第5番」等を演奏し、スタンディング・オベーション等の大喝采を浴びる。

2016年9月、小林研一郎作詞作曲の小学校校歌のお披露目会のため、福島県矢祭町へ出かけ、小林研一郎指揮で小学生や周辺地域の人々に生のオーケストラ音楽を届けるなど、機会があれば地域活動にも貢献するよう心掛けている。2017年11月、清里開拓の父であり、日本聖公会（立教大学、聖路加国際病院など）の為に尽力したポール・ラッシュ博士の生誕120周年を記念するコンサート（山梨県）に出演。

2018年9月チェコのスメタナホールにて、矢崎彦太郎指揮の下、R. シュトラウス / ホルン協奏曲第1番（独奏：カテジナ・ヤヴールコヴァ） リムスキー＝コルサコフ「シェヘラザード」の他、西村朗の作品を紹介した。

国内の主催公演では、メゾ・ソプラノのエレナ・オブラスツォワ、徳永兼一郎・徳永二男兄弟（ブラームス / 二重協奏曲）、ピアノの山下洋輔、小山実稚恵、仲道郁代、パスカル・ドゥヴァイヨン、ヴァイオリンの大谷康子、千住真理子、山根一仁、フルートの細川順三、工藤重典、ギターの荏村清志、声楽では森麻季など、多種多様なアーティストと共演している。

演奏会のライブCDとして、マーラー交響曲第2番「復活」、同 / 交響曲第3番、「エレナ・オブラスツォワとともに」、R. シュトラウス「英雄の生涯」（コンサートマスター 大谷康子）、ショスタコービッチ / 交響曲第5番「革命」をリリース。

1998年には当時ベルリンフィルのソロ・トランペット奏者であったコンラディン・グロート教授と共に、トランペットの名曲を満載したオリジナルCD「トランペット協奏曲」、2004年、ベルリンフィルのソロ・トロンボーン奏者オラフ・オット氏とのCD「トロンボーン協奏曲集」をカメラータ・トウキョウより、2012年、ドヴォルザークホールにてのライブCDをオクタヴィアレコードからリリースしている。

次回演奏会

第79回演奏会 [結成50年記念] 2026年4月11日(土) 東京芸術劇場
指揮：大友直人 独奏：三浦文彰 R. シュトラウス「アルプス交響曲」他（予定）